

JR東海労ニュース

No.2579

2021年3月8日

JR東海労働組合



2021JR総連春闘勝利！ シリーズ⑬

経営が厳しいと言いつつリニアは止めない 体力があるなら満額回答は可能だ！ 2021春闘 第3回団体交渉

本部は3月5日、2021年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れについての第3回団体交渉を開催しました。今回は、ベア、昇給、無利子貸し付け、コロナ慰労金について、職場で苦勞している社員の切実な声を会社にぶつけました。

冒頭、本部は「JR東海ユニオンの春闘情報には成果を勝ち取ったように書かれているが、全組合に説明してからオープンにすべきだ」と主張しました。会社は「申し入れに対し、検討すると回答をただけである」と、首を傾げながら返答しました。本部は「この情報では、差別をされていると受け止める。各労働組合がある中、会社は中立の立場に立っているのか」と質問したところ、会社は「中立である」と答えました。

ベア、昇給について会社は、「赤字で業績が悪い。支払う余力はない」と事情を説明しながら、ベアも昇給も出さないための言い訳に終始しました。本部は「役員報酬はたかが1割の自主返納だ。JR他社に比べても低い。リニア建設を進めていることは、財力に余裕がある。余力がないとはいえない。利益剰余金も社員に還元せよ」と主張しました。定昇の低減撤廃について、会社は「苦勞した者が報われる制度を変える考えはない。昇格試験に合格しようとする気力が失われる」と、言い訳を並べましたが、本部は「努力しても報われていないのが現実だ。安全・安定輸送を担う鉄道業に競争を持ち込むことは、安全を阻害することだ。多くの社員が、定昇400円だ。制度そのものを変えなければならない」と主張しましたが対立でした。また、安定的支給ベースの解釈についても追及しましたが、対立でした。

会社は、業績が好調のときに「業績連動ではない」と、賃金を抑えてきましたが、今回初めて「制度、賃金規程に関わることは、業績連動ではない。賞与は会社の業績に影響する。連動ではない」と、新たな見解を示してきました。本部は「今まで言ってきたこととは全く違う」と糺しましたが、対立のまま団交を終了しました。

※詳細は『業務速報』No.1248を参照して下さい。

第4回団体交渉は3月10日（水）に開催します。